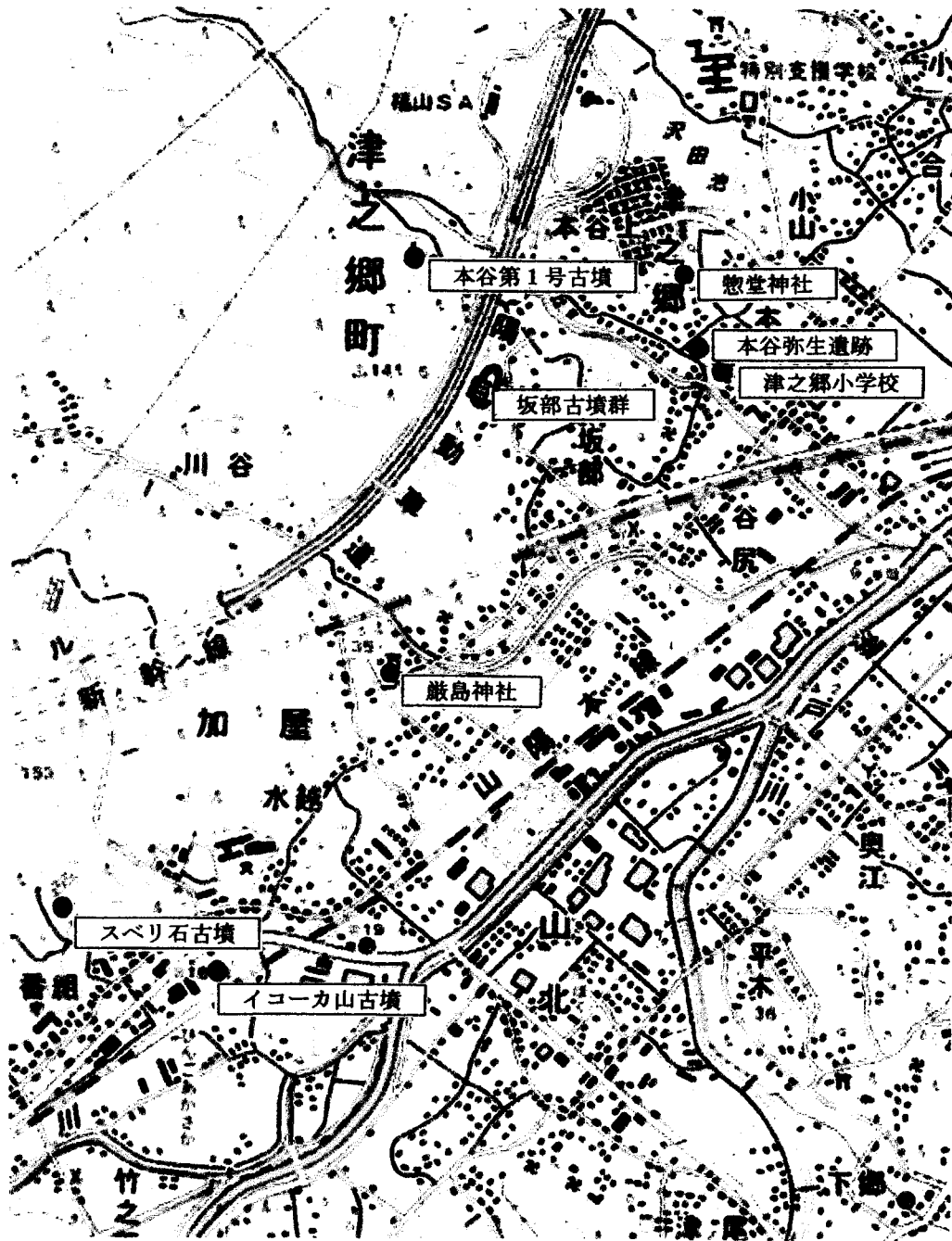


第28回 親と子の古墳めぐり

古代の津之郷・赤坂を訪ねる



2010年5月5日

備陽史探訪の会

親と子の古墳めぐり行程

○5月5日(水) 晴れ!

8:25 福山駅前(バス)出発

8:40 谷尻バス停着 (現地にて受付)

8:50 開会式(津之郷小学校周辺)

9:00 「本谷弥生遺跡」(福山市指定史跡)探訪!

9:20 足利義昭ゆかりの「惣堂神社」探訪!

10:00 「本谷第1号古墳」探訪!

11:00 「坂部古墳群(第3号・第4号)」探訪!

12:00 お弁当タイム(「巖島神社」)

13:00 お楽しみクイズ大会

13:30 再出発

14:30 「スベリ石第1号古墳」(福山市指定史跡)探訪!

15:30 「イコーカ山古墳」(福山市指定史跡)探訪!

16:00 閉会式・解散(備後赤坂駅)

※山陽本線(備後赤坂駅) (上り)16:13 16:31

(下り)16:17 16:34

古墳時代のことを知ろう！

古墳(こふん)時代は、今から約 1,750 年前(3世紀)~1,300 年前(8世紀)のことです。

「古墳」というのは、土を盛り上げて作られたお墓のことです。その表面には石が敷きつめられていて、頂上やまわりには「埴輪(はにわ)」が並ぶものがあります。棺を納めるための石室には、「竪穴式石室」と「横穴式石室」の2種類があります。

また、棺の中には遺体のほかに、鏡や剣・武器や武具などが納められていました。

3世紀の後半の古い古墳の中でも大型のものは、大和(今の奈良県)地域に多く作られました。このことから、大和を中心とした地域に、強い権力を持つ王がいた、と考えられています。

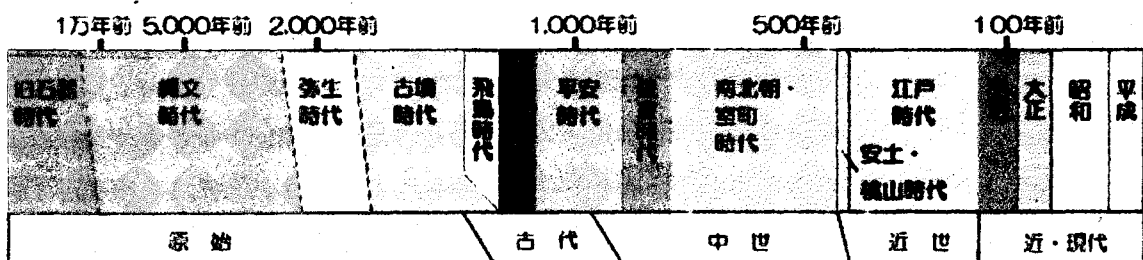
5世紀の後半には、九州北部から関東地方までの、それぞれの地域の権力者は、大和を中心とした勢力に従うようになったと考えられています。

6世紀になると、全国各地で横穴式石室をもつ小規模の古墳が爆発的に多く築かれるようになります。これは、各地の豪族だけでなく、地域のリーダーなどにも古墳の築造が広がったことをあらわしています。

大きな古墳をつくるということは、その人に権力があることを示していました。けれども、中国大陸や朝鮮半島から新しい技術や政治の方法が取り入れられると、大きな古墳を作る必要がなくなりました。

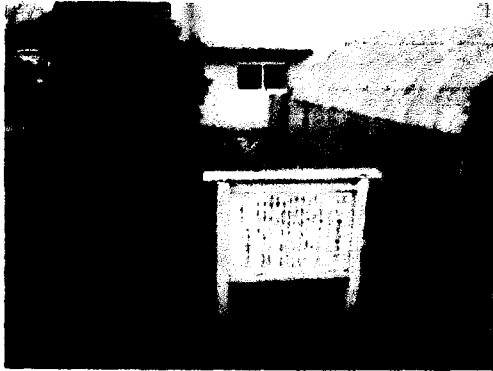
奈良時代は、こうした新しい考え方による国づくりが進められた時代です。

歴 史 年 表




●本谷弥生遺跡（市指定史跡）

津之郷の周辺は、弥生時代の今から約2千年前には、海が深く入り込んでいたと考えられています。津之郷の“津”というのは、もともと「港」を意味する言葉ですから、文字どおりこの一帯が港周辺の地域であったことが推測されます。この「本谷弥生遺跡」は、津之郷のもともとの海岸に沿うようにして広がる平野の中の北辺部にあります。



遺跡が見つかったのは昭和17年（1942）のことでした。津之郷小学校の校門の脇で、防火用池を造成中に、弥生土器にまじって貨泉（かせん：市重要文化財）が出土したのがきっかけです。

その後の調査で、縄文土器（縄文時代後期：今から約4千年前）、弥生土器（弥生時代中期・後期：今から約2千年前）、そして、古墳時代の土師器（はじき）や須恵器（すえき）が出土しました。



貨泉（かせん）は、古代中国の新（しん）という時代の貨幣です。

「新」は、紀元1世紀前半のごく短期間の王朝で、当時の日本は弥生時代でした。

その当時の日本は、日常生活で貨幣を使うことはありませんでした。ではなぜ貨泉が日本にもちこまれたのでしょうか？一つの解釈は、中国の貴重なものをもっているという、いわば、権力を示す「ぜいたく品」のような意味。二つめが、銅鑄（どうたく）などの青銅器の材料として入手したという考え方。つまり、貨泉を青銅器の材料にしたと考えるのです。

●惣堂神社

津之郷小学校から脇道を北に上がると、こんもりとした社叢（しゃそう）が見えます。これが惣堂神社（そうどうじんじゃ）です。



この神社には、足利幕府最後の将軍であった足利義昭（あしかがよしあき）がまつられています。

足利15代将軍の足利義昭は、天正4年（1576）2月に鞆へやって来て、しばらく滞在したあと、この津之郷にやって来て御殿山に居住しました。御殿山の跡は、御殿畑といひます。神社の東側の丘がそうです。

●本谷第1号古墳（市指定史跡）

津之郷町本谷の丘陵には、横穴式石室（よこあなしきせきしつ）をもっている、古墳時代後期（6世紀）の古墳がいくつかみつかっています。

その中のひとつが、本谷第1号古墳です。ちなみに、古墳の番号は、古さを表しているものではありません。

この古墳の石室は、現在では完全に露出していますが、もともとは土が盛りられていました。これを墳丘（ふんきゅう）といいます。

墳丘をつくっていた土が失われていることから、もともとの形はもちろん、大きさも正確にはわかっていません。

遺体を葬っていた部分を「石室」と呼びますが、この古墳では、花崗岩（かこうがん）を使った横穴式の石室を見学することができます。

石室の規模は、全長が8.85m。幅は入口で1.32m、奥壁のところで1.99m、高さ2.3mあります。

石室の作り方をよく見ると、奥壁とよばれる一番奥の石は、大形の花崗岩が1枚でつくられています。石室の両側の側壁とよばれる部分をみると、持ち送りといって、上にいくほど中側にせりだしたような形をしています。

どうしてこんな形にしたのでしょうか？



なお、この古墳から出土した遺物には、銀環（イヤリング）1個、勾玉（ネックレスにつけたきれいな石）3個のほか、須恵器があります。

●坂部第4号古墳（市指定史跡）

津之郷の平野部北側。南にのびる丘陵には、平野を見おろすような形で、数多くの古墳が存在しています。

中でも、坂部地区には4基の古墳が確認されています。どれも横穴式石室をもつ古墳時代後期の古墳ばかりです。



それらのうち、東側に位置する第4号古墳は、石室を覆っていた盛り土が失われているので、古墳の形や規模は正確にはわかっていません。

遺体を葬っていた部分（内部主体といいます）は、花崗岩を使用して部

屋をつくっています。南側に出入り口がある横穴式石室です。

この石室の規模は、全長8.13m。奥壁部幅1.64m。高さ1.3mです。石室の両側の石は、天井部に近づくにしが狭くなる「持ち送り」の状態になっています。残念なことに、出土遺物は不明です。



●坂部第3号古墳

第4号古墳の西側に位置する古墳ですが、もともとはさらに西北のところに築かれていました。山陽自動車道の工事に伴い、発掘調査された後に、現在の場所に移築されたものです。



横穴式石室の古墳で、石室の全長は7.5mあります。高さは2.4m、幅1.8mという大きさです。

●スベリ石第1号古墳（市指定史跡）

津之郷町の本谷古墳群や坂部古墳群から、さらに西の丘陵に連なる古墳群の中の一基です。山頂付近に築かれており、大変に眺めの良い場所です。

古墳の形は円墳で、直径が13m、高さは5mあります。

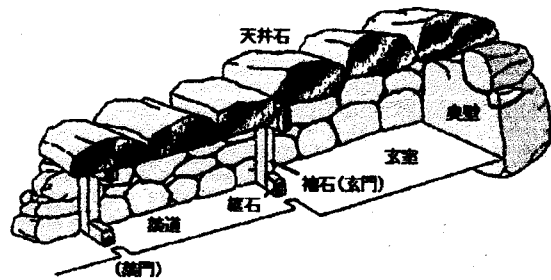
内部主体は、本谷第1号古墳や、坂部古墳群と同じように、花崗岩を使用した横穴式石室で、南側に開口する、「片袖式」とよばれるタイプのもので、

横穴式石室は、大きく分けて、遺体をおさめた「玄室（げんしつ）」という部分と、通路部分にあたる「羨道（せんどう）」と呼ばれる部分とからできあがっています。

このスベリ石第1号古墳の石室の場合は、まず玄室の長さが5.5m、高さは2.5m、奥壁部の幅は2.0mあります。

いっぽう、羨道の長さは4.0m、幅1.5m、高さ1.3mです。

実は、このスベリ石第1号古墳は、



津之郷・赤坂周辺では、最大規模の横穴式石室を有する、古墳時代後期の古墳ということが出来ます。

残念なことに、出土遺物はよくわかっていませんが、この津之郷・赤坂地域を支配した有力なリーダーのお墓であったことは間違いありません。



●イコーカ山古墳（市指定史跡）

赤坂の地区を含む平野部の北の端。津之郷町加屋から南にのびている丘陵の先端部に築かれた古墳です。現在は、JR山陽本線のすぐ脇になっています。

古墳の大きさは径約10mで、古墳の形は円墳になります。



古墳の表面を保護したり、古墳でのおまつりのためにつくられた外部施設として、円筒埴輪（えんとうはにわ）が二重に、古墳の周りをめぐっていました。

遺体をおさめる内部主体は、発掘をおこなっていま

せんから、具体的にはわかっていませんが、今日見た古墳のような横穴式石室はなかったと考えられます。むしろ、横穴式石室の古墳よりも古い時代の古墳ですから、竪穴式石室や石棺などがおさめられているのではないかと推測できます。



さらに、この古墳の周囲はかなり削りとられているので、もともとの地形や様子は現在では分かりにくいのですが、南西に続く丘陵には、板石状の石を組んで作った箱式石棺とよばれる内部主体などをもつ、4基の古墳から構成された池下山古墳群が存在していました。



なお、このイコーカ山古墳の西側の墳裾には、一部を欠くものの、室町期のものと考えられる宝篋印塔（ほうきょういんとう）があります。

宝篋印塔は、墓塔や供養塔として建てられたもので、イコーカ山古墳脇にまつられたこの塔は、足利幕府最後の将軍であった足利義昭のものである、という言い伝えも残っています。

